

Ⅱ.地域に住む住人による乳児家庭全戸訪問事業 Ⅲ.宿泊型産後ケアセンターの各自治体への設置

Ⅱ.地域に住む住人による乳児家庭全戸訪問事業

- ▶ 新生児訪問とこんにちは赤ちゃん事業の目的を差別化。
- ▶ 地域に根をはって子育てする家族を支えるための地域づくりのきっかけとして、こんにちは赤ちゃん事業を活用。

Ⅲ.宿泊型産後ケアセンターの各自治体への設置

- ▶ 実家機能を持つケア施設の創設を行い、母子の関係性の構築と家族への育児支援を提供する。
- ▶ 病院の延長線上ではなく、生活支援としてのケア提供を行うことが重要である。
- ▶ NPOなど、地域の社会資源ともつながりを持つ開かれた施設であることが求められる。

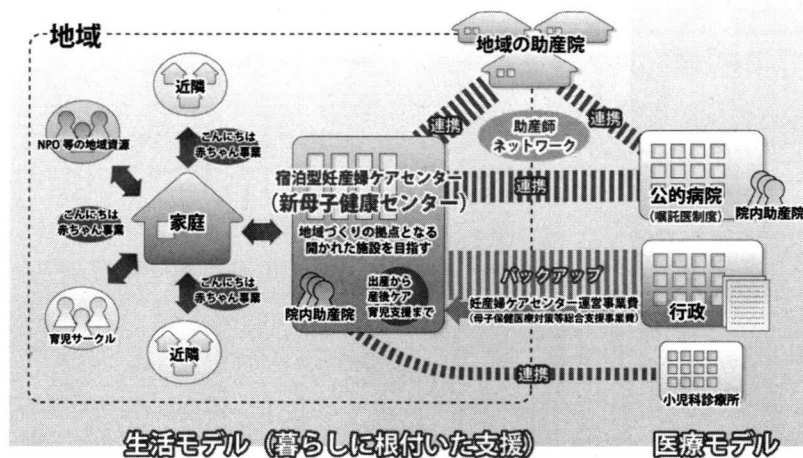
ソーシャルキャピタルの醸成、地域の関係性の再構築に寄与し、子育てを地域で行うことにつながる

「医療モデル」と「生活(QOL)モデル」の対比

	医療モデル	生活(QOL)モデル
主 体	援助者	生活者
責 任 性	健康管理をする側	本人の自己決定による
関 わ り	規則正しい生活へと援助	本人の主体性への促し
捉 え 方	疾患・症状を中心に	生活のしづらさとして
関 係 性	治療・援助関係	ともに歩む・支え手として
問 題 性	個人の病理・問題性に重点	環境・生活を整えることに重点
取 組 み	教育的・訓練的	相互援助、補完的

▶ (出所) 谷中輝雄著:生活支援—精神障害者生活支援の理念と方法、p178.やどかり出版、1996.

子育て支援体制 地域の関係性の再構築



母子保健事業全体の展開

生活モデルとしての家族支援の充実

「ポピュレーションアプローチ」における
「地域の関係性の再構築」の重要性

参考資料 2

こんにちは赤ちゃん事業評価指標

(表1) 事業名： こんにちには赤ちゃん事業

母集団 出生数 () 人

予算根拠

事業背景 (現状分析・地域診断・課題)	目的	行動計画	評価指標
<p>乳児を育てている親が、相談する場所や相手が分かることで孤立せず、身近な地域住民の温かいまなざしを実感しながら子育てができる。</p> <p>施策目標</p> <p>《行政》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市町村保健師が地域の子育て事情と課題と照らし合わせて事業の目的を明確にできる ・市町村保健師がこんにちには赤ちゃん訪問事業と他事業とのすまわがけができ、対象者選定の管理ができる。(知識・技術) ・訪問員と保健師が相互に信頼し合い、スムーズな情報交換ができる。 ・乳児を持つ要支援事例について、適切に対応できる。 ・保健師が、訪問で得た情報を集計して分析できる。 <p>《訪問者》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・訪問員の子どもたちを守るという意識が高まる。(意識) ・訪問員が自信を持って訪問に向き合うことができる。(知識・技術) ・訪問員が近所の住民と子育て家庭をつなぐきっかけ作りができる。(技術) ・訪問員が要支援家庭を保健師に早めにつなぐことができる。 ・訪問員が事業の必要性和やりがいを感じることもできる。(認識) ・訪問員以外の地域住民(仲間)に子育て中の家庭へ理解を促す話ができる。 ・訪問対象者・住民》 ・育児に対する不安や悩みを解決するための道筋(相談者、相談場所)が分かる。(知識) ・乳児を育てる親が訪問員の存在とその役割を知り、活用できる。(情報→行動) ・乳児を育てる親が目が行き、地域参加が増えつながりを実感する。(意識) ・訪問利用者が、地域における子育て支援の担い手となる。 	<p>自治体に合った行動計画</p> <ul style="list-style-type: none"> ◎目標に沿っていますか？ ◎成果(評価指標)を導ける内容になっていますか？ ◎単年度ですべてができるとは限りませんが、優先順位を！ 	<p>企画評価 (input・structure)</p> <p>研修会について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日時、場所、テーマ・周知方法・講師の選定の妥当性 ・事前資料・当日資料の適切さ ・事前の医師会との打ち合わせの適切さ <p>訪問員連絡会について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日時・運営・記録の適切さ・妥当性 ・事業の目的・目標の妥当性 ・周知方法の妥当性 ・訪問時の配布物の妥当性 <p>実施評価 (output)</p> <p>研修会について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実施回数 ○○回・参加者○○人 (内訳)・参加者構成比(背景、年齢、性別) <p>訪問員連絡会について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・年間○回、平均参加者数、○人(訪問員に対する参加率) ・それぞれの立場での発言内容(数)・意見内容(数)、参加による満足度・充実度 ・本事業の集計分析結果の可視化(資料化) <p>訪問事業について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・訪問員による連絡調整件数 実数()件、述数()件 ・保健師等看護職による連絡調整件数 実数()件、述数()件 <p>結果評価 (outcome)</p> <p>研修会について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・研修到達度 訪問の仕方、面接、個人情報保護(事前事後アンケート) ・協力(登録)訪問員数 <p>訪問員連絡会について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・やりがい(地域貢献度)に対する実感のある人の割合 ・悩みを共有しやすい環境であると思う訪問員の数・割合 ・事業の進捗や成果を実感できたか ・クレーン対応から学ぶことができたか <p>訪問事業について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・訪問員による4か月までの訪問者数・率()人()% ・保健師等看護職による訪問件数(再掲)要支援事例への訪問件数(実)(延べ) ・訪問員からつながる要継続事例の報告件数 ・4か月までの虐待予防目的の要支援者数・虐待通報例 ・孤立せずに子育てできていると思える人の数(4か月健診時・1歳6か月健診時) ・クレーン数()件(内訳)どのような人がどのような内容で！ <p>広がりについて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自発的に支援活動を行う訪問員数 ・訪問員以外の住民に子育てについて語る訪問員数 ・母親同士の交流の場を設ける訪問員数 ・1歳以下の子育て支援事業等の利用者の増加 ・町内会(自治会)や子ども会等への加入者数 ○年→22年 ○人 	

次世代育成支援政策における産後育児支援体制のありかたに関する政策提言

I. 産後早期退院と助産師による早期新生児訪問制度の設立

- ① 早期退院に向けた、専門職による早期新生児訪問制度の確立を行い、訪問による在宅ケア体制の充実を図る。
- ② 訪問した専門職により、家族ケア及び生活ケアの提供が行われる。

II. 地域に住む住人による乳児家庭全戸訪問事業

- ③ 新生児訪問とこんにちは赤ちゃん事業の目的を差別化。
- ④ 地域に根をはって子育てする家族を支えるための地域づくりのきっかけとして、こんにちは赤ちゃん事業を活用。

III. 宿泊型産後ケアセンターの各自治体への設置

- ⑤ 実家機能を持つケア施設の創設を行い、母子の関係性の構築と家族への育児支援を提供する。
- ⑥ 病院の延長線上ではなく、生活支援としてのケア提供を行うことが重要である。
- ⑦ NPO など、地域の社会資源ともつながりを持つ開かれた施設であることが求められる。

研究成果の刊行に関する一覧表

書籍

著書氏名	論文 タイトル名	書籍全体の 編集者名	書籍名	出版社名	出版地	ページ	出版年
福島富士子	母子関係をはぐくむ育児への支援—家族関係の調整	齋藤益子	未来に広がる助産師活動	メディカ出版	東京	184～186	2008

雑誌

発表者氏名	論文 タイトル名	発表誌名	巻号	ページ	出版年
宮里和子	“産後ケアセンター桜新町”の取り組み	助産雑誌	Vol.62 No.5	432	2008
宮里和子	行政と大学が協働する助産師活動—「武蔵野大学付属産後ケアセンター桜新町」の助産師活動	保健の科学	Vol.50 No.10	685	2008
	子育てするならこの街で	AERA	No.53	31	2008
中板育美 他	周産期医療と子育て支援の充実のために	母子保健	通巻第 597号	1～7	2009
	生活 WIDE 産後の入院短縮広がる	読売新聞	2009.12. 15	19	2009
福島富士子	公衆衛生活動における助産師活動の現状と評価の課題	保健医療科学	Vol.58 No.4	362～ 369	2009
福島富士子	産後支援の新しい形と考え方の提案 出産から一貫した支援プロセスの必要性	保健師 ジャーナル	Vol.66 No.1	20	2010
加藤尚美	保健師と助産師とのさらなる協働を 助産師が考える地域母子支援の形	保健師 ジャーナル	Vol.66 No.1	26	2010

